

Corporate Profile

セイコーエプソン株式会社 会社案内 2022/2023

© Seiko Epson Corporation. 2022

2022年6月27日 発行

80th Anniversary

はじめに、セイコーエプソン株式会社は、今年で創立80周年を迎えました。
当社は、1942年の創立当時、諏訪湖のほとりで時計部品の製造からスタートしました。

以来、培ってきた「省・小・精の技術」をベースに、独創のものづくりを志し、
世界中でお客様の期待を超える製品・サービスをお届けするべく、創造と挑戦を重ねてきました。
そして、世界の人々に「今までできなかったことができる」喜び、期待以上の感動、新しい文化をもたらしてきました。
これまでご支援をいただいたお客様をはじめ、多くのステークホルダーの皆さまに心より感謝申し上げます。

私たちがエプソン1942年に長野県諏訪地方に創業いたしました。今から
約80年前ということで今年が80周年という事になります。



エプソン80周年ビデオリンク参照:
<https://www.youtube.com/watch?v=z0eL4UCvYIk>

経営理念

お客様を大切に、地球を友に、
個性を尊重し、総合力を発揮して
世界の人々に信頼され、社会とともに発展する
聞かれた、なくてはならない会社でありたい。
そして社員が自信を持ち、
常に創造し挑戦していることを誇りとしたい。

EXCEED YOUR VISION

私たちエプソン社員は、
常に自らの常識やビジョンを超えて挑戦し、
お客様に驚きや感動をもたらす
成果を生み出します。



持続可能でこころ豊かな社会を実現する

現在は、新しい会社のビジョン「持続可能でこころ豊かな社会を実現する」を目指してビジネス展開しております。

会社概要

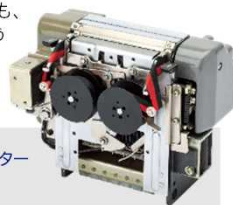
商 号	セイコーエプソン株式会社
設 立	1942年5月18日
本 社	長野県諏訪市大和三丁目3番5号
資本金	532億400万円

「EPSON」の由来

$$EP + SON = \lceil EPSON \rceil$$

「EPSON」というブランド名称は、事業領域を広げる発端となった「EP-101」が由来です。

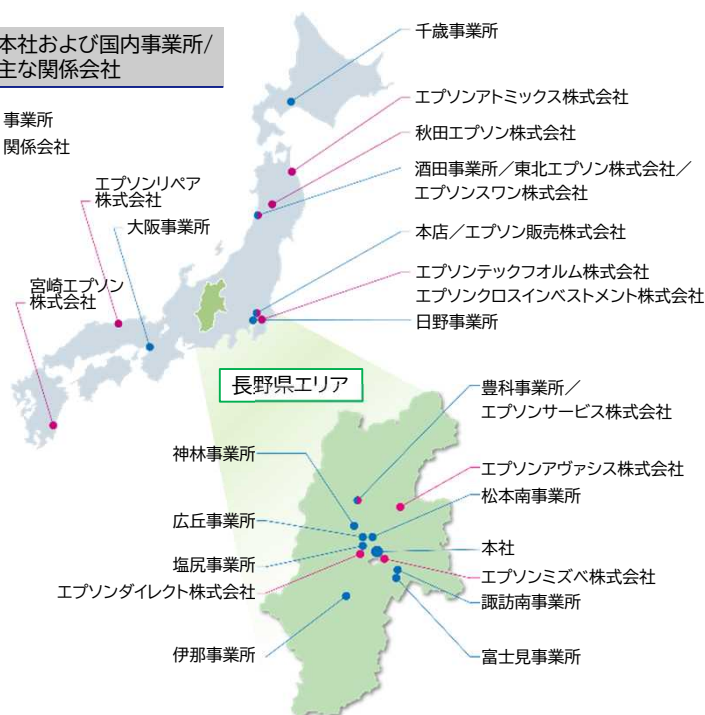
「EP(Electric Printer)」が新しい価値をお客様に提供したように、さまざまな分野で、価値ある製品・サービスである子ども、**「SON」**を多く生み出し続けていくという思いが込められています。



世界初の小型軽量デジタルプリンター
「EP-101」

本社および国内事業所/
主な関係会社

- 事業所
- 関係会社



会社概要ですが、長野県を中心に事業展開しております。
「EPSON」の由来ですが、事業領域を広げる発端となった小型デジタルプリンター「EP-101」の子供「SON」を多く生み出していこうという思いが込められています。

業績と事業規模

2021年度業績(連結)

売上収益

1兆1,289億円

事業利益^{*1}

896億円

親会社の所有者に帰属する
当期利益

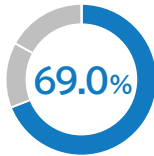
922億円

各事業セグメントの売上収益^{*2}

プリンティングソリューションズ
事業セグメント

売上収益
7,799億円

売上収益構成比



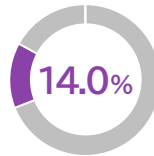
主な事業内容



ビジュアルコミュニケーション
事業セグメント

売上収益
1,590億円

売上収益構成比



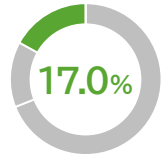
主な事業内容



マニファクチャリング関連・ウェアラブル
事業セグメント

売上収益
1,919億円

売上収益構成比



主な事業内容



*1: 売上収益から売上原価、販売費及び一般管理費を控除して算出。(日本基準の営業利益とほぼ同じ概念) *2: 各事業セグメントの売上収益は、事業セグメント間取引を含む。

© Seiko Epson Corporation. 2022

セイコーエプソン株式会社 会社案内 2022/2023 | 6

事業規模と事業内容です。

2021年度の売上高は1兆1,128億円です。

事業内容は3つありまして、

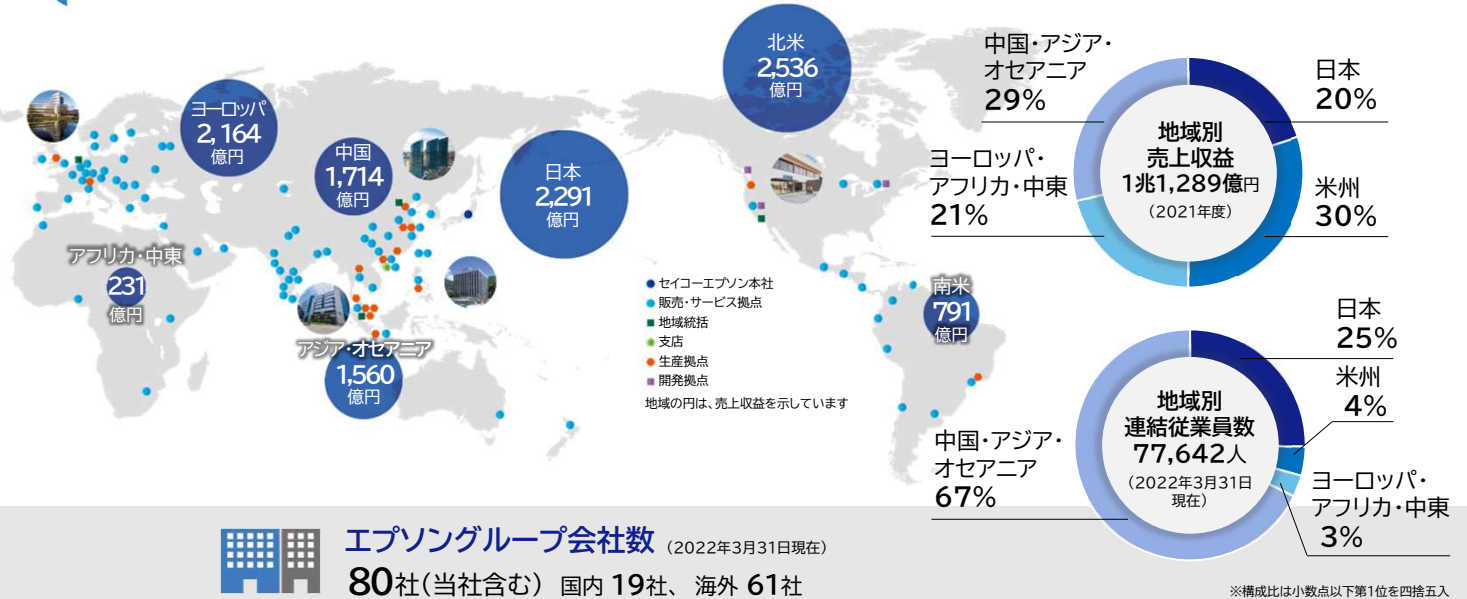
1つ目はプリンティングソリューション事業で、売り上げの69%を占めています。

2つ目はビジュアルコミュニケーション事業で、売り上げの14%を占めています。

3つ目はマニファクチャリング関連・ウェアラブル事業で売り上げの17%を占めています。

グローバルネットワーク

さまざまなお客様ニーズを的確に把握し、素早く、柔軟に対応すべく、開発・生産拠点をはじめ、販売・サービス拠点を世界各地に展開しています。



このように事業展開しながら、世界各地に開発・生産拠点、販売・サービス拠点を展開しております。
現在、グループ全体で80社ありまして、その内国内19社、海外61社になります。(※2022年3月31日現在)

味噌蔵改築からの出発

Beginnings in a miso storehouse

1942年 ^{だい わ} 大和工業創業
1942 : Daiwa Kogyo opens for business

1942年5月18日、有限会社大和（だいわ）工業が設立されました。当初従業員は9人。
“輪振り（わふり）”の製造に必要な道具づくりから始まりました。

Daiwa Kogyo, Ltd. was established on May 18, 1942. At the time, there were nine employees, who began by creating the tools needed for production.



当時の作業風景 Production area



求人広告
(1942年9月15日付
信濃毎日新聞)

Job posting
(Shinano Mainichi
Shinbun, September 1942)



1942年12月 大和工業創業記念

Commemorating the opening of Daiwa Kogyo in December 1942

エプソンの前身となる大和工業が1942年に創業されました。
当時、東京で製造されていた時計の疎開先ということで、製糸業を支えていた女工さん、その周辺の味噌産業で使用されなくなった味噌蔵を活用し、諏訪の地で機械式時計の製造が始まりました。

世の中にないものは、自分たちでつくる 世界初 クォーツ腕時計の開発

Creative Self-Reliance

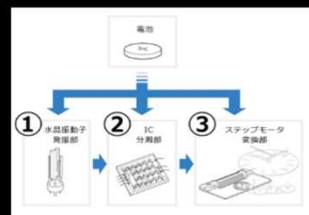
Development of the world's first quartz watch

独自開発、そして世界標準へ。

1969年、世界初の水晶腕時計セイコークォーツアストロン355SQを開発・製造しました。当時、機械式の精度は日差±20秒程度でしたが、この腕時計では日差±0.2秒という超高精度を実現しました。独自開発した音叉型水晶振動子、1秒運針方式、分散型ステップモーターは、水晶腕時計の世界標準(グローバルスタンダード)として定着し、現在に至っています。多くの人びとに正確な腕時計を使用してもらうためにライセンス契約し世界に公開しました。

Original technology becomes the global standard

Epson's tuning fork crystal units, the one-second ticking motion of the second hand, and an open-type stepping motor became global standards. This technology was licensed to give more people access to accurate wristwatches.

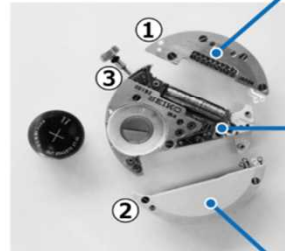


クォーツウオッチの仕組み
Quartz watch mechanism

世界標準となる3つのキーテクノロジー

Three technologies that would become global standards

クォーツアストロンのムーブメント分解写真
TEXT



音叉型水晶振動子

従来の棒状の水晶振動子から音叉型にすることで8 kHz・小型化・安定化を実現。

Tuning fork crystal unit

A smaller, more frequency stable tuning fork crystal unit was used instead of a conventional tubular crystal unit.

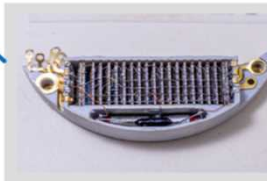


オープン型ステップモーター

従来の筒状型であったが、コイル、ステーター、ロータを分割・分散配置して、小型化、薄型化、1秒に1回の駆動を実現。

Open-type stepping motor

The stepping motor's coil, stator, and rotor were arranged separately to reduce the size and thickness and to drive the second hand once per second.



ハイブリットIC

正確に1秒1回の電気信号を制御する低消費電力のクォーツウオッチ用IC。セラミック基板上に手作業でトランジスタ76個、抵抗84個、コンデンサー29個を合わせて189個もの素子をハンダ付けで実現。

Hybrid IC

The low-power IC for quartz watches accurately extracted one electric signal per second.

その後1969年に世界初の水晶腕時計セイコークォーツアストロンを開発・製造しました。

当時、機械式時計の精度は日差±20秒程度でしたが、この時計では日差±0.2秒という高精度を実現しています。

この時開発されたテクノロジーが後の水晶腕時計の世界標準となっております。

デバイスおよび応用製品で新しい世界へ 世界初クォーツ腕時計の開発

TEXT

Development of the world's first quartz watch

クォーツアストロンのキーテクノロジーとなった「小型水晶振動子」「低消費電力CMOS IC」「小型モーター」「液晶パネル」はそれぞれ独自の開発を続け、当社の電子デバイスビジネスに発展していきました。

水晶振動子：1971年、製造部門を設置し、フォトリソエッチング方式で信頼性を高め、事業を拡大していきました。

半導体 (CMOS-IC)：1971年、自社開発に成功、1973年量産工場を立ち上げました。ステッピングモーター：クォーツ時計用に展開し、1981年、プリンター用ステッピングモーターを開発、翌年には量産を開始しました。

液晶パネル：1973年、06LCデジタルウォッチ用に液晶パネルを量産し、電卓用に応用しました。

We independently developed the tiny crystal units, low-power CMOS-ICs, miniature motors, and LCDs that enabled the Quartz Astron and that eventually grew to become Epson's electronic devices business.

In 1971, we began manufacturing crystal units, improved reliability with a photo-etching process, and expanded the business.

We developed our own CMOS-ICs in 1971 and, in 1973, launched volume production.

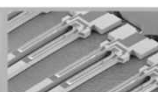
We deployed stepping motors first in quartz watches and later, in 1981, developed them for printers, volume-producing them the following year.

In 1973, we began volume-producing liquid crystal panels for 06LC digital watches and later developed and manufactured LCDs for calculators.

1. 水晶振動子の展開



1975年 32KHZの時計用音叉型水晶振動子
1975 32-kHz tuning fork crystal unit for watches



フォトリソエッチング製造
Photo etching manufacturing



時計用音叉型水晶振動子の小型化
Miniaturization of tuning fork crystal units for watches

2. 半導体 (CMOS-IC) の展開



1971年 38SQWに搭載された自社開発・製造したCMOS-IC
1971 An originally developed and manufactured CMOS-IC used in the 38SQW



1975年 32KHZの時計用音叉型水晶振動子
1975 32-kHz tuning fork crystal unit for watches

3. モーターの展開



1969年 コイル、ステータ、ローターの各部品が分散配置
1969 The coil, stator, and rotor were arranged separately.



1973年 06LC用FEM方式の液晶パネルデジタル試作品
1973 FEM LCD for the 06LC.00 digital watch ProtoType

4. 液晶パネルの展開



1971年 FEM方式液晶デジタル試作品
1971年 LCD
Digital watch ProtoType



1973年 06LC用FEM方式の液晶パネルデジタル試作品
1973 FEM LCD for the 06LC.00



1973 FEM LCD for the 06LC.00
デジタル試作品
1978 LC panels used in calculators and a wide range of other products

デバイスおよび応用製品を事業化

このテクノロジーは後の弊社の電子デバイス事業に発展したり、プリンター事業の発展に貢献しております。
また、時計のデジタル化のニーズから液晶腕時計が開発され、後にこの液晶技術が当社のプロジェクター事業の発展に貢献しております。

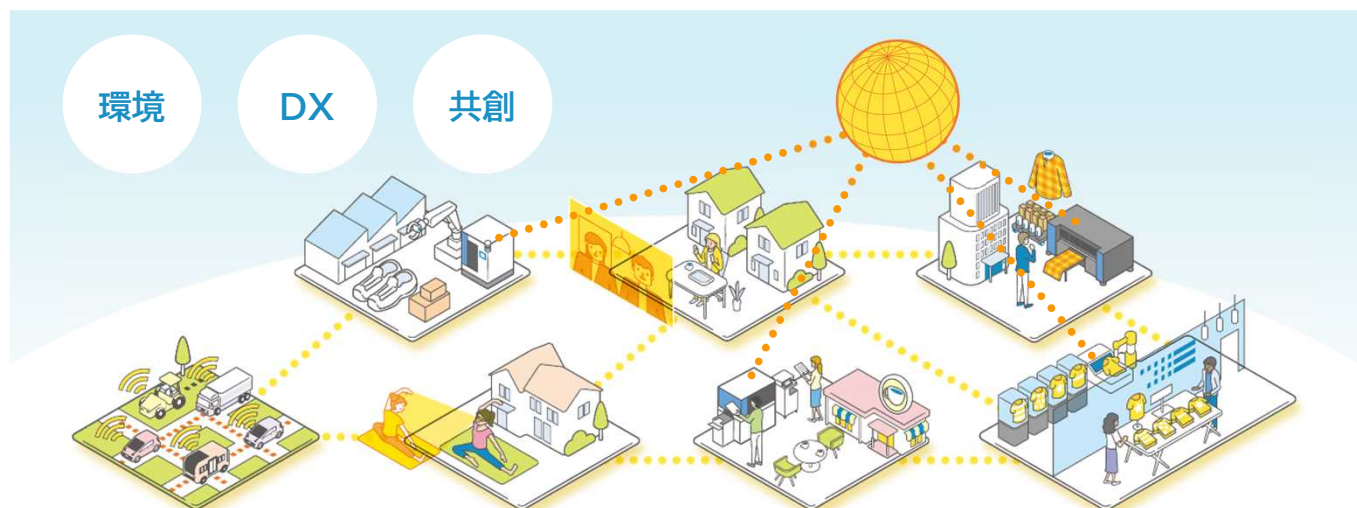
創業以来、独自の技術により新たな価値を創り、人々の生活を変えてきました。



当社のこれまでの歩みを振り返りますと、世界初のクォーツウォッチ、あるいはご家庭でのプリント印刷、大型のスクリーンに映し出すプロジェクターといった今では当たり前となっているような文化を数々生み出ささせていただいております。弊社の技術「省・小・精」、これは省エネルギー・省スペースの省、そして小型軽量の小、さらには高精度の精という強みで、その時代の社会課題を捉え、社会に貢献してきたと考えています。

ビジョンステートメント

「省・小・精の技術」とデジタル技術で
人・モノ・情報がつながる、持続可能でこころ豊かな社会を共創する



© Seiko Epson Corporation. 2022

セイコーエプソン株式会社 会社案内 2022/2023 | 12

こちらが弊社の長期ビジョンEpson 25 Renewed のビジョンステートメントです。
「省・小・精の技術」とデジタル技術で人・モノ・情報がつながる、持続可能でこころ豊かな社会を共創する」ことに向けて事業展開しています。

エプソンが取り組む社会課題とマテリアリティ

【社会課題】



【マテリアリティ】

社会課題解決に向け、「循環型経済の牽引」「産業構造の革新」「生活の質向上」「社会的責任の遂行」を重要テーマとして取り組みます。



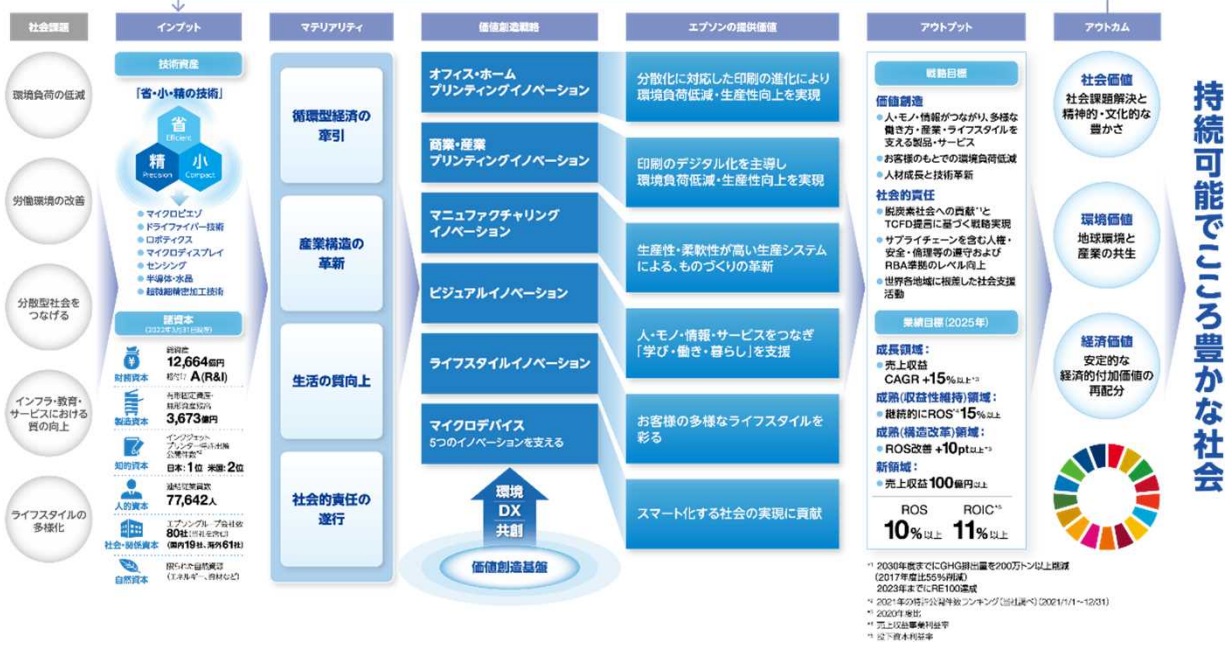
こちらは、エプソンが取り組む社会課題です。
「環境負荷の低減」、「労働環境の改善」、「分散型社会をつなげる」、「インフラ・教育・サービスにおける質の向上」、そして、「ライフスタイルの多様化」への対応です。

これらの社会課題を起点に自社視点・社会視点による評価を行い、社会課題解決に向けエプソンが取り組むべき重要度の高いテーマであるマテリアリティを特定しました。

マテリアリティは、「循環型経済の牽引」、「産業構造の革新」、「生活の質向上」、「社会的責任の遂行」です。

ありたい姿を実現するための価値創造ストーリー

社会課題を起点に、エプソンの企業活動によって社会課題を解決する価値を創造し、継続して提供します。



© Seiko Epson Corporation. 2022

セイコーエプソン株式会社 会社案内 2022/2023 | 14

こころ豊かな社会を実現するためにまず、社会課題を起点に考えようということで、ありたい姿を実現するための価値創造ストーリーというものを作っております。

一番左が社会課題です。まずこれを起点に私たちの事業を考え、社会課題解決のために私たちが取り組む授与テーマを決めて、最終的には持続可能で心豊かな社会このありたい姿を実現していこうというのが私たちの考え方になります。

この取り組みの中で重要となるのは、「環境」、「DX」、「共創」の3つです。エプソンは、「環境」への貢献に重点を置きます。そのうえで、イノベーション実現のために、デジタル技術を活用し、多くのパートナー様との共創に取り組んでいきます。

共創：信頼とテクノロジーで世界をつなぐ

独立行政法人国際協力機構（JICA）とセイコーエプソン株式会社 包括連携協定を締結

- 信頼とテクノロジーで世界をつなぐ -

独立行政法人 国際協力機構（理事長：北岡伸一、本部：東京都千代田区、以下 JICA）とセイコーエプソン株式会社（代表取締役社長：小川恭範、本社：長野県諏訪市、以下 エプソン）は、開発途上国の課題解決およびSDGs達成への貢献を目的として、2022年3月25日に包括連携協定を締結しました。



<署名式の様子>

その中で、2021年3月25日にJICA様と包括連携協定を締結しました。JICA様のビジョンである「信頼で世界をつなぐ」とエプソンの「少・小・精」のテクノロジーでさらに世界をつなぐことができるであろうと考えておりまして、今回の連携で「信頼とテクノロジーで世界をつなぐ」ことを目指しております。

